

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 22 章 34~40 節>

イエス様が示された最も重要な二つの掟。その二つの関係に注目です。

①「全身全霊をかけて、あなたの神である主を愛しなさい」

ヤーウエの神を信じるユダヤ人なら誰もが頷く答えでしょう。しかし今の日本人にとっても新鮮な答と言えるかもしれません。神無しに自分の力だけで走って来て疲れたり、生きる意味が分からなくなった時に、もし本当に神様がおられるならば、これほど力を注ぐに足る答があるでしょうか?! 「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう** (ルターは「元気づける」と訳した)」(マタイ 11:28) と呼びかけられたお方がいます。主イエス・キリストです。このイエス・キリストこそが、私たちが全身全霊で愛して生きるに値する方なのだ、と聖書は私たちに語りかけているのです!

②「隣人を自分のように愛しなさい」

神様への愛の次に隣人への愛が説かれています。しかし、そこで使われている「愛しなさい」の元のギリシア語は、神様の愛、無償の愛を示す「アガペー」が使われています。ですから、「報いを求めない愛を隣人に注ぎなさい!」と言われているのです。しかし、人の愛はどうでしょうか? イエス様も問いかけられました、「**自分を愛してくれる者を愛したとしても**」「**自分の兄弟にだけ挨拶をしたところで**」(マタイ 5:46-47) と。聖書の御言葉を学んで行くと、自分がどれだけアガペーの愛から遠い罪深い存在であるかが分かってきます。以前は神様の愛を知らず、せいぜい回りの人間と比較するにとどまっていたからです。そして、「自分の愛の足りなさ」を知らされて行く中で、イエス・キリストが注いで下さった「神様の愛の大きさ」が分かって来るのです!

生きる意味や追い求める喜びを間違うと、人生に空しさが増して来ます。しかしその時こそ、「造り主にして、赦し、救い主なる神様を愛し、隣人を愛して生きる」戸口に立たせていただいている時なのです。その神様の招きに応えて、主の御手の中に飛び込んで行くべき時なのです!